

通信	同	6号	府中稲城不動産
組合	舟	10月	取引業組合
			編輯兼発行人
			高野豊次

定例十月理事会開催



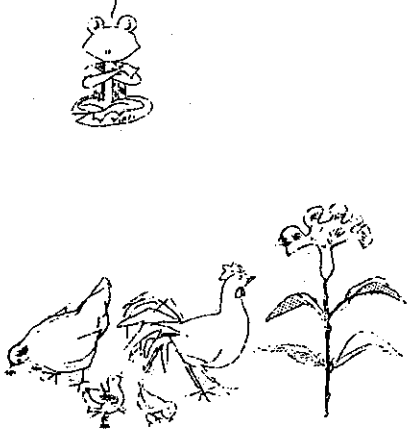
一、時 十月五日午後五時
 二、ところ ダイワ不動産
 三、出席者 小林、榎峠、加藤、田中、高野、山村、石黒、結城、辻、各理事

要領次の通り

A 報告事項

- (イ) 幹旋調書提出の件
 山村理事長より不動産幹旋調書提出の件につき三多摩各組合の態度報告あり。これによると町田、調布、日野、西多摩、の各組合は連合会の態度に同意するものの如く、又武蔵野、八王子、立川、府中、の各組合は絶対提出拒否の態度を固執するもの様である。当組合としては態度をかえることなく成行きを見極めることにした。旨報告あり
- (ロ) 剣道大会実施の件
 連合会厚生部及び青年部では十一月中に剣道大会を実施する由、山村理事長より報告あり
- (ハ) 無登録業者の摘発に関する件
 近く連合会調査部は無登録業者の摘発に乗出す旨、山村理事長より報告あり。

人と店



当組合員の地盤は概ね京王線又は南武沿線であるのに対し、中央線国分寺、小金井方面を地盤とする、田中商事不動産部がある。

代表者田中房次君は都下八王子の産、明治大学を卒業後、西多摩地方事務所へ奉職、のち北多摩地方事務所を経て本庁経済局に転じ、漸く役人としての地歩を固むるに至つた。然し乍ら同氏の性格上どうしてもかかる生活にあき足ることなく遂に昭和三十年二月には同行を退職してこの業界に転入した。

尤も開店当時は折よく宅地ブームの波に乗る一面、機を見るに敏にして、所謂先見の明と持前の度胸により分譲等も実施の結果は業績大いに挙げ、今日の地位を勝ち得た。

現在は国分寺町一里塚に本店を、八王子、昭島に各支店を設置して総員十二名のほか、外務員駐在制により円滑に業務を遂行しつつある。

今後は幼稚園、スイーパーマーケット等多角的な経営も計画中であるので大いに発展を期待するもの一人である。同氏は大正十三年生れ、本年四十才、家庭には夫人のほか二男一女がある。以て自重自愛を望む

B 協議事項

- (イ) 組合規約改正の件
 かねて各理事より提議のあつた組合の規約改正については辻、結城理事が担当して草案を作成本理事会に提出あり各員検討したるも何分組合規約は組合の憲法であり、基本法ともいふべきもので短時間を以て決定することはおもしろからず、よつて来る十一月定例理事会迄に各員が意見を持ち寄ることとし本理事会に於ては決定を見送つた。尙草案十條の役員選挙に関し高野理事より意見の申出があつた。
- (ロ) 調停委員委嘱に関する件
 九月理事会に於て決定した調停委員委嘱の件は山村理事長より次の者に依頼する旨発表あり各員これを了承した山村馬太郎、石黒善彌、高野豊次、辻金吾、加藤武
- (ハ) 登記事務説明会の件
 九月理事会に出議のあつた登記事務説明会の件は山村理事長より司法書士組合長五味氏に篤と依頼したるも、難色あり仍つてパンフレットを発行方依頼に対しても困難の旨回答あり。種々努力したるも今のところ良策なき旨報告あり。

白川郷を貫くに莊川がある。この川は後に射水川となり富山灣にそゞいでいる。この流れ一帯は大家族制で有名であるが、実際の大家族制は明治末期頃に殆んどその跡を絶ち、昭和の始めに至つては僅かに二、三のものだけがこれを持統するにすぎなかつた。それにしてもこの川筋は各戸共五階の合掌建てで昔乍らの姿である。森の中にたゞ一戸ポツリと建つておるのも壯麗だし、五六十戸の合掌建てが軒を並べて建つておるのも亦壯観である。

何にしても十一月から翌年の四月までの間は雪の為此の合掌建ての一階で寝起きするのであるから如何に三十畳もあろうかと思ひ広い部屋でも四六時中そこに居ることになるとそれは狭いものかもしれない。従つて五月から十月までの間は真に彼等の活動期であり開放期で又、娯楽の季節ともなる。尤も娯楽といつても歌と踊りより外になく、就中、麦屋節、が最も有名で何につけても唄われる歌である。あの平家の落武者がありし日の歡樂を追つて夜な夜な歌つたと思われる。麦屋節、こそ激越な調子に実に哀調を帯びた民謡でもあり酒と女のほしくなる歌でもある。

麦や菜種は二年で刈るが

麻は半年土用に刈る

という文句からみても、彼等の先祖は如何に里の情景を思い出しそして里恋しさの余情切々たるものがありしかゞ窮られる。

さて九月ともなると秋祭りであるが、この川筋の祭は、上流の部落から遂次下流の部落へと移行する定めがあり、祭の終るのは十一月の始めである。従つて九月より十一月の始めまでは何処かの部落で祭が催されておるのでいつでも祭にあやかることが出来る。そこでこの祭りに二つの珍らしいことがある。その一つは昔高山の代官所で官許を得たと言ひ神酒ドロク醸造である一石に満たない九斗九升九合であればそれは天下御免とあり税務署も何も言わない、そして仮りに一部落五戸しかなくとも祭中にこの九斗九升九合を飲み平げねばならんという仕組となつておるので驚かざるを得ない従つてお客観迎は勿論女、子供までがドロクを浴びるやうに飲みその上旬は踊り狂うのであるから全く珍景である。もう一つは部落によつて三ヶ日の祭りのうち一日だけが法律がない日がある。即ち人の嫁も娘も人の且那も若い衆も天下御免の振舞が出来る日であつて、思ひ存分慾求が果されるところに面白みがある。これが平気で行われる事由は詳びらかでないが、筆者が考へるところに、この郷筋の娘乃至若い衆は結婚前は比較的別に気にすることなく自由に振舞い処女や童貞をやかましく言わないが、一旦結婚したとなると、その女は夫だけを、男は妻だけに限るかたい習慣があるので旧情を暖める意味に於て一年に一度はかゝる昔にかえる自由行為が認められたのであるか？

現在はどうなつておるか知る由もないが筆者が在任の頃ですら、尙旧踏依然たるものがあり、当夜の情景は筆紙に尽し難いものがあつた。

いづれにしても食べること、もう一つの本能に生き甲斐を感じると思われるこのあたりの人々は洵に同情を禁じ得ないものがある。男が三味線を弾き女が夢中で歌い且つ踊る情景は亦ここでなければ見られない別世界でもある。

環流



業界一本化は洵に望ましいし又表現を希望する。然しこの業界は従来群雄割拠で悪くいえばドングリの背くらべでもある。それが馬は馬、牛は牛で本当の同志が集るのなら自然の姿だが大義名分がどうかと思ひかたまりでは単なる頭角争いにすぎず、凡そ意味のないものである。

望むらくは大物出現によつて業界の一本化を熱望して止まない。

編輯後記

○辻氏が不動産の講演会に出席して聞いた話だが不動産の今後の情勢は丁度夜明けの四時の状態で非常に見通しが明るいという。これは色々の角度から理論的に出た話で満更うそでもなさそうである。

○組合の理事会も毎月開催、各員共真剣に討議を重ねつゝある。これは山村理事長の熱心にもよること乍ら、各員の心構えも一段と緊張しておる証左だ。

○改正業法が実施になると登録が免許となる、然し乍ら免許に就いては地元組合の推薦が必要となるやの由、いよいよ組合の責任は重く重要視される日があるかもしれない。こうした意味に於ても理事者は緊禪一番の努力と緊張が必要である。

昭和三十九年十月五日夜

この編輯終りて高野しるす